

1) 「道の駅」における子育て支援の方向性

①道の駅基本構想における位置づけ

○図表 1-1：道の駅整備コンセプト（「阿賀野市道の駅基本構想」より抜粋）

5. 整備コンセプト

阿賀野市の『道の駅』整備にあたっては、「白鳥が舞う阿賀野市の、五頭連峰や五頭温泉郷、瓢湖などの自然、阿賀野川の恵みによって営まれる農業や数々の地域資源などの大地の恵み、それらを世界へ向けて発信し、交流と賑わいが阿賀野市の未来と交差する大切な場所」を理想とし、以下の整備コンセプトを設定します。

◎整備コンセプト

白鳥の空・恵みの大地が織り成す阿賀野市の
交流・賑わい・未来交差点

また、基本方針として、「休憩機能」「情報発信機能」「にぎわい・交流機能」「防災機能」の基本的な機能を具体化するために、以下に示す基本方針を掲げます。

基本方針 1. 市民と利用者に愛され、多くの人が集う『いやしの空間』

市民や近隣市の住民のほか、国道 49 号の利用者が気軽に訪れることができ、快適に過ごせる空間とします。

- ①市民の憩いの場として、また、子育て世代と高齢者が集い楽しく快適に過ごせる場として、子育てや軽スポーツ、観光など様々な活用ができる多目的広場等を設置します。
- ②国道 49 号の利用者については、トラックやバスなど大型車用の駐車場を配置して休憩の場と道路交通情報の提供を行います。

基本方針 2. 地方創生に向け、地域資源の活用と交流を図るとともに、地域情報を発信する『にぎわいの空間』

産業や観光の活性化および都市農村の交流拠点の形成を行います。

- ①農産物直売所を設置し、地産地消と消費者との交流を推進するとともに、持続可能な農業の担い手育成を支援します。
- ②総合的な地域情報について、各種情報媒体の活用など様々な方法を検討することにより効果的に発信し、観光客の増加と交流人口の拡大を目指します。

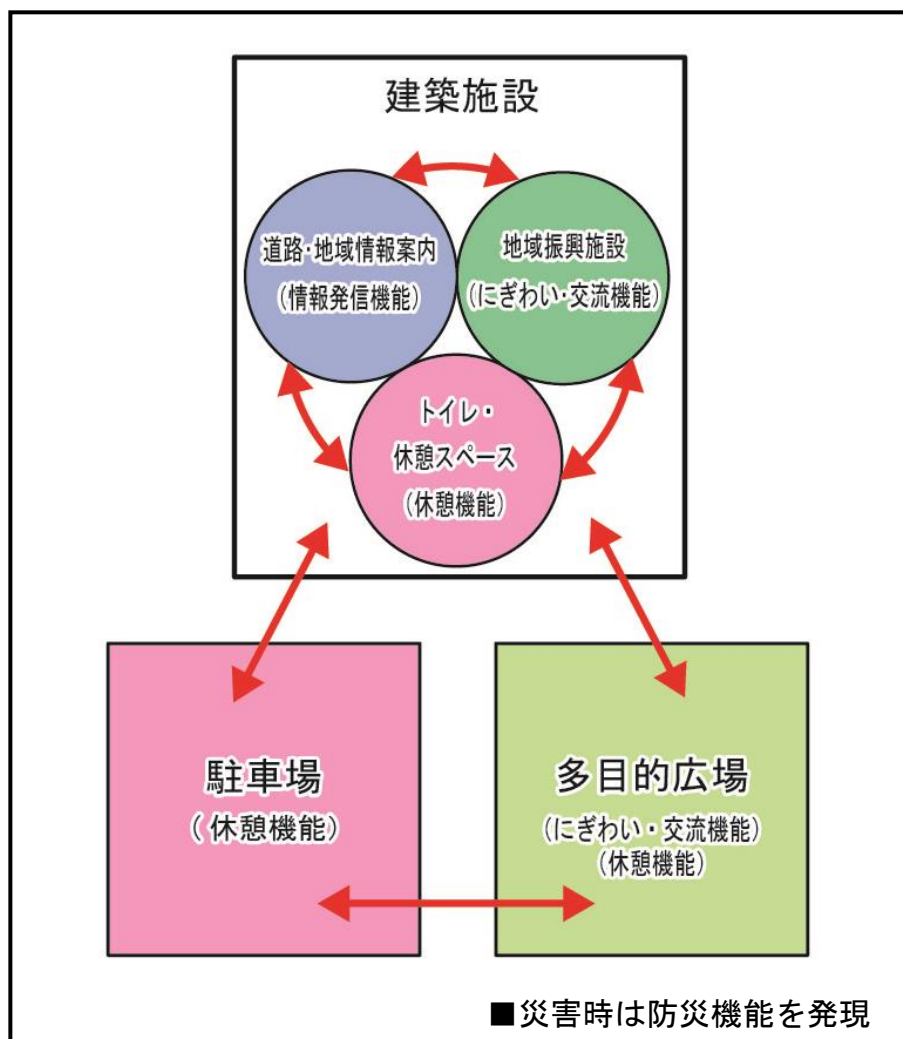
基本方針 3. 災害時に応急活動や被災者支援を行う『まもりの空間』

国道 49 号沿道に位置する交通アクセスの利点を活かした防災拠点の形成を行います。

- ①広域的な支援活動や救援物資の集配、情報の収集・提供など、災害時における「ひと」「物」「情報」を集約する防災拠点とします。

○図表 1-2 : 4つの基本機能のイメージ

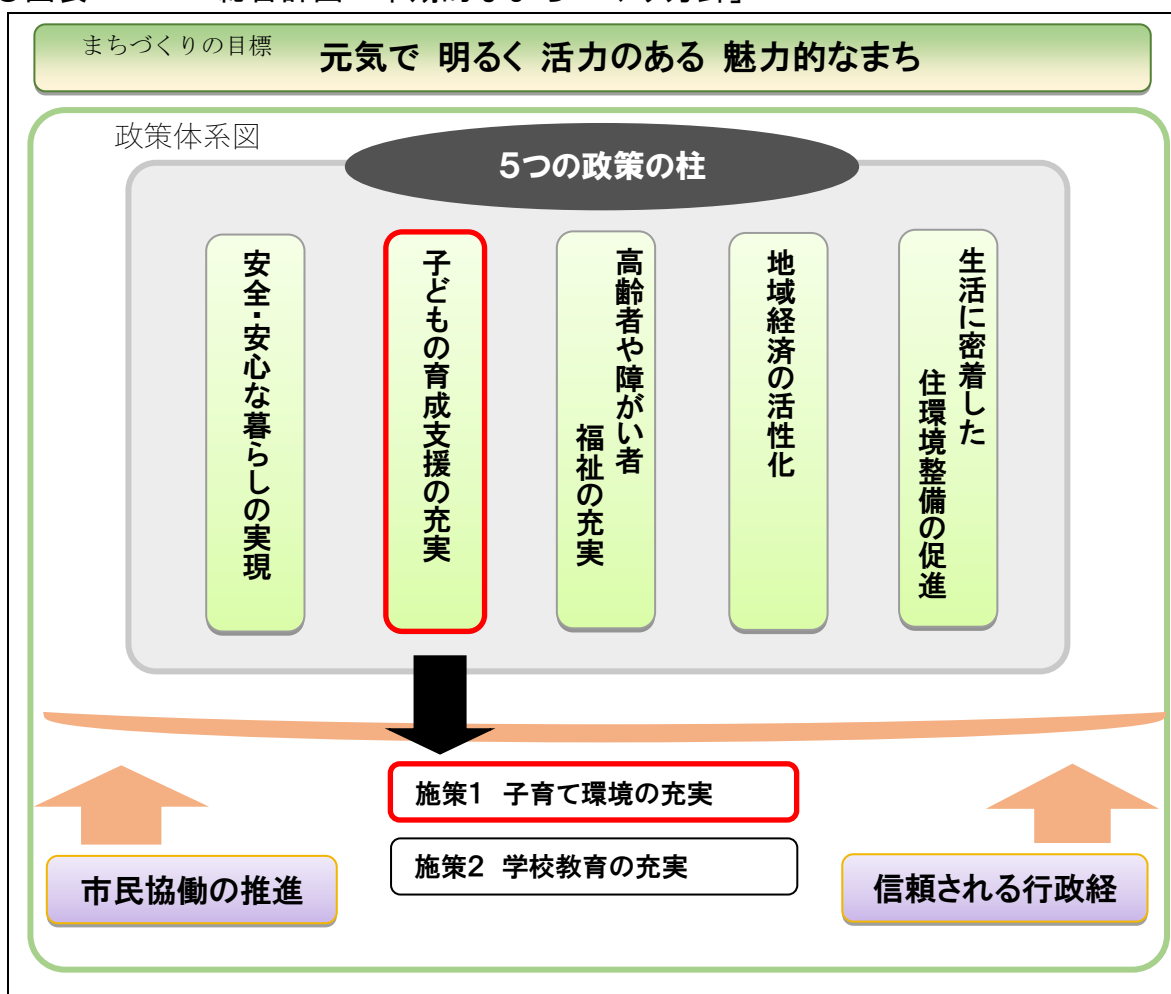
(「阿賀野市道の駅基本構想」より抜粋)



- ・基本構想では、子育て支援や高齢者のための機能について、「整備コンセプト」や「導入機能の整備方針」などにおいて位置付けている。(P1 参照)

②阿賀野市総合計画における位置づけ

○図表 1 - 3 : 総合計画「中期的なまちづくり方針」

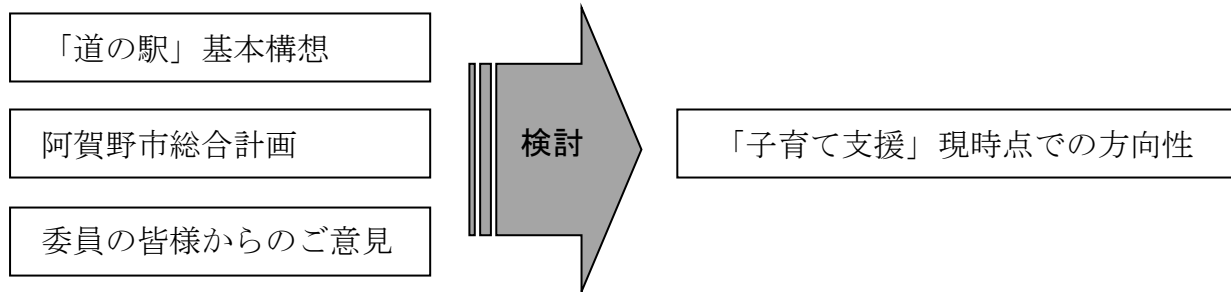


- ・総合計画とは、よりよい地域づくりのための施策を、バランス良く効率的に進めていくための基本的な指針となるもので、阿賀野市における最上位計画です。
- ・人口減少に歯止めをかけ、いかに地域を活性化させるかなどの課題解決のために「元気で 明るく 活力のある 魅力的なまち」をまちづくりの目標に掲げるとともに、「子どもの育成支援の充実」を5つの政策の柱の一つとして設定し、政策下に施策とし「子育て環境の充実」を置き、重点的に取り組むべき分野等を定めている。
- ・総合計画のアンケート調査では、「子どもを遊ばせる場所が十分にあると感じる保護者の割合」が49.6% (H28) と半分も満たない現状である。
- ・これらの目標・政策やアンケート調査結果などをふまえ、子どもの遊び場・広場などを含め「子育て支援」について検討する必要がある。

③検討委員会での子育てに関する主な意見

- ・子育てファミリーが子育ての相談ができたり、情報が得られたりといった一歩進んだ子育て施設といったことも検討してはどうか。
- ・この機会に、ぜひ多目的広場を充実させてほしい。
- ・阿賀野市には子どもを遊ばせるスペースがない。
- ・雨天や真夏でも遊べる空間の確保が必要。
- ・屋根付きで日影があり、ちょっとの雨をしのげるという場所はぜひほしいと思う。
- ・「道の駅」において、体験施設があると子供が喜ぶのでは。
- ・体験や遊ばせることを重要視し「何かを観て楽しむ・参加して楽しむ」が今は主流となっている。
- ・大きな遊具があると子どもが自由に遊び楽しんでくれるので、そこを充実させれば親子連れや若い人たちも阿賀野市に遊びに来てくれるのではないか。
- ・子どもたちが来れば親も来るので、阿賀野市外からミニ遠足のような形で利用してもらえる魅力ある公園づくりができるとうい。

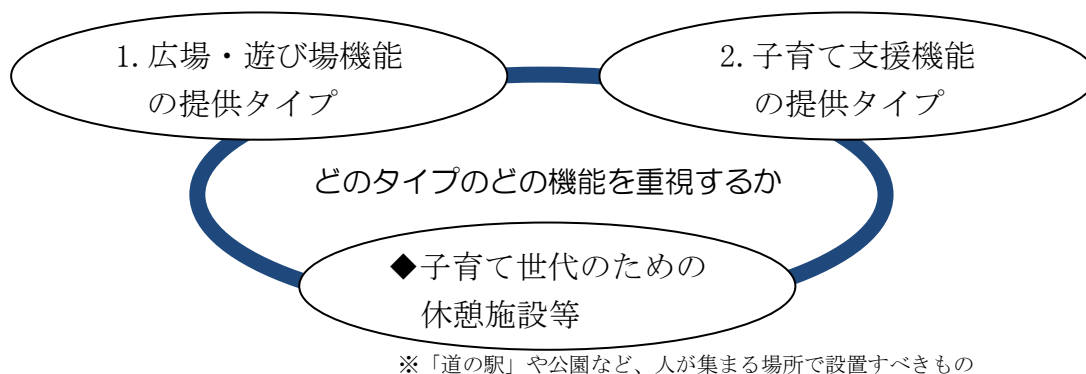
「道の駅」基本構想、阿賀野市総合計画の位置づけや検討委員会でのご意見を踏まえ検討し、次ページで説明する「子育て支援」現時点での方向性を取りまとめました。



④「子育て支援」現時点での方向性

- ・阿賀野市「道の駅」における「子育て支援」として、「広場・遊び場機能の提供」や「子育て支援機能の提供」タイプが考えられる。(図表参照)

○図表1-4：想定される子育て支援機能のタイプ



タイプ	例
1. 広場・遊び場機能提供タイプ	<ul style="list-style-type: none"> ○広場（軽スポーツ、ピクニック等） ○屋内における遊び場 ○屋外における遊び場（遊具等） ○遊歩道（ジョギング、散策等）
2. 子育て支援機能提供タイプ	<ul style="list-style-type: none"> ○親子の交流の場の提供と交流促進（交流・体験） ○子育てに関する講習会等の実施 ○地域子育て関連情報の提供 ○乳幼児対象の遊び場（絵本等）
◆ 子育て世代のための休憩施設等	<ul style="list-style-type: none"> ○授乳、おむつ交換の設備や子ども用トイレ等の設置 ○ベビーカーや子ども用椅子、遊具等の子育て世代をサポートする備品等の貸し出し

[方向性]

○幅広い子どもの年齢層に対応するため、

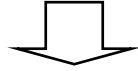
- ・主に幼児や小学生を対象とする「1. 広場・遊び場機能提供タイプ」
- ・主に乳幼児を対象とする「2. 子育て支援機能提供タイプ」
- ・「道の駅」や公園など人が集まる場所で設ける「子育て世代のための休憩施設等」

その全てを併せたもので検討する。

■今回の委員会における検討事項

- ・「道の駅」整備計画を策定するにあたり、意見を聴取する。

◆「子育て支援」について（具体的な施設・機能）

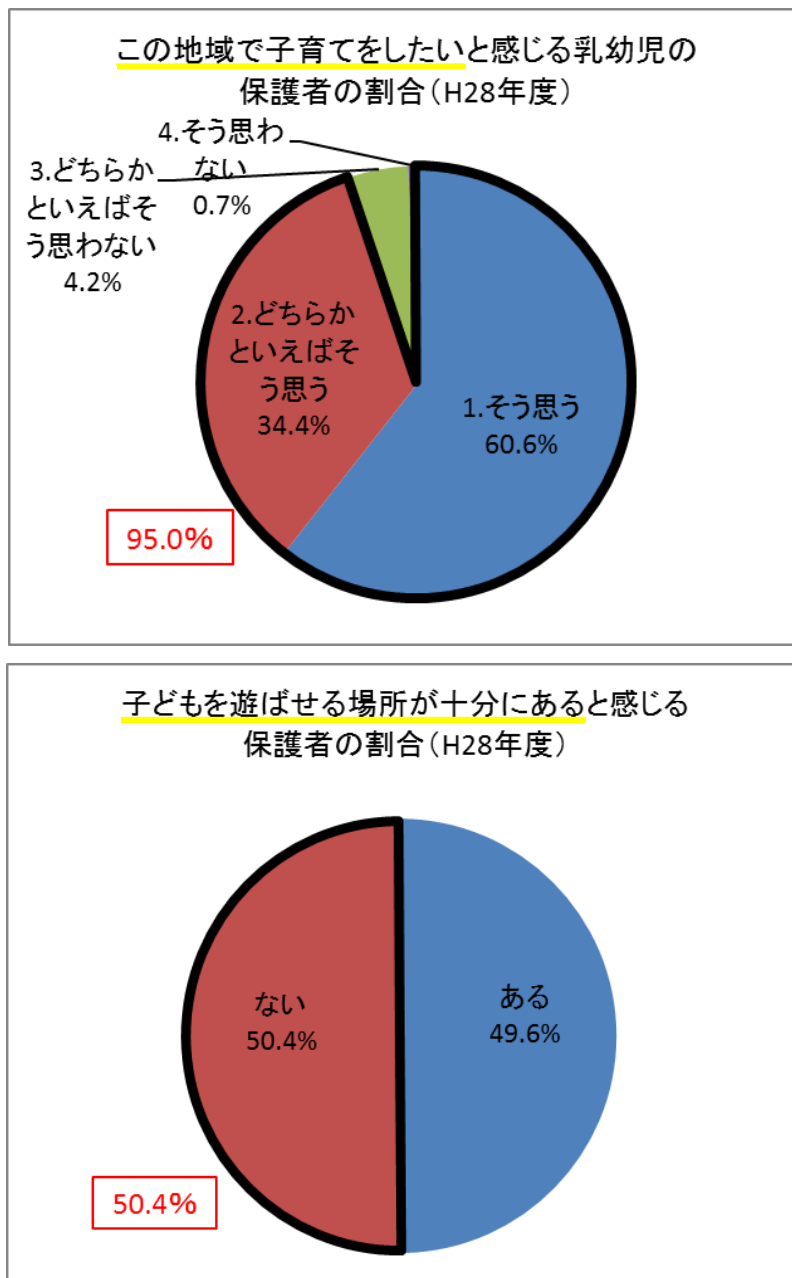


議論をお願いしたい

2) 「子育て支援」等に資する公園施設

①公園に関するニーズ

○図表 2-1 : 子育て支援に関する市民意識



資料：「すこやか親子アンケート」平成 28 年度

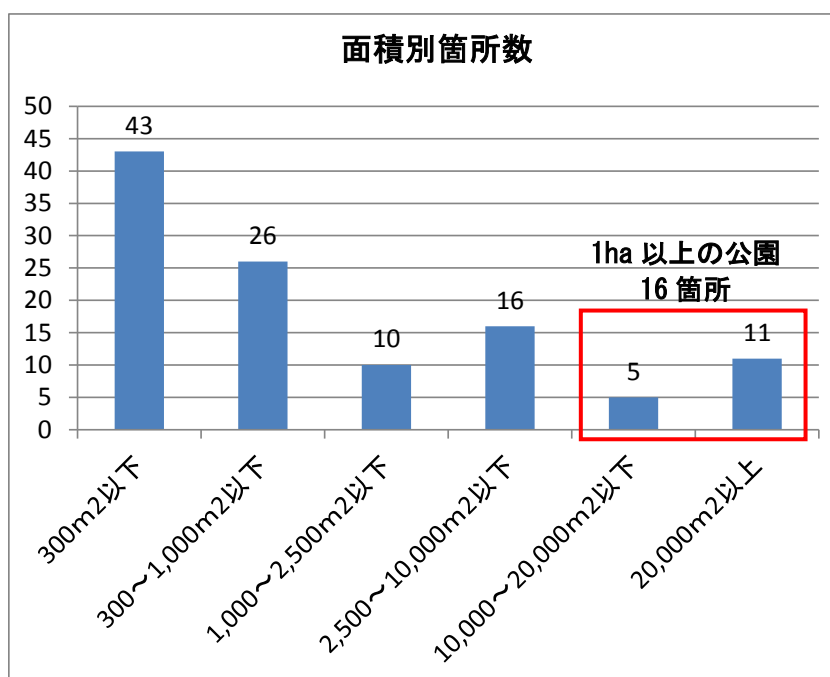
対象者：3～4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診の健診受診者の保護者

- ・子育て世代の市民に対するアンケートによると、「この地域で子育てしたい」市民は95%を超える一方で、「子どもをあそばせる場所が十分ある」と感じている市民は50%にとどまっている。
- ・全国調査では、都市公園に対して「子どもの遊び場」としての機能を求める割合は高い。

②市内の公園の実態

○図表 2-2 : 市内公園の総公園数、面積別の公園数 [グラフ]

	箇所数	総供用面積 (ha)
市全体	111	113.7
安田地区	30	59.1
京ヶ瀬地区	18	18.3
水原地区	54	34.1
笹神地区	9	2.2



- ・市内には、都市公園条例や児童遊園設置条例などにに基づき、計 111 箇所の公園が整備されている。地区別には水原地区が最も多く、次いで安田地区の順となる。
- ・面積別にみると、大規模な 1ha 以上の施設は 16 箇所あり、全体の 1 割程度となる。
- ・1ha 以上の公園の現状は、下記のとおりとなる。

(市内公園の現状)

- 軽スポーツやピクニック、幼児が遊べる大きな広場が不足。
- 散歩やジョギングできるような遊歩道が不足。
- 遊具が備わった公園が不足。
- 雨天や真夏でも活動できる空間が不足。

③市外の公園の実態

(1) 参考となる阿賀野市周辺等の公園機能

○図表 2-3 : 周辺公園の位置図



阿賀野市周辺の同規模程度の公園

(参考となる公園機能)

- 軽スポーツやピクニック、幼児が遊べる大きな広場が整備されている。
- 散策やジョギングができるような遊歩道が整備されている。
- 人気・好評な遊具が備わっている。
- 雨天や真夏でも活動できる施設が整備されている。
- 様々な体験ができる空間とメニューが備わっている。

【事例】

○軽スポーツやピクニック、幼児が遊べる大きな広場

軽スポーツやピクニックなど様々な活用ができ、幼児が走り回り遊べるような大きな広場が整備されている。



①よこごし公園



②五十公野公園



⑤鳥屋野湯公園



⑧紫雲寺記念公園



⑨みどりと森の運動公園



活用イメージ

(出典：現地撮影・ホームページより)

○散歩やジョギングができるような遊歩道

散策やジョギングなどが楽しめ、子どもから高齢者まで楽しく快適に活用できる遊歩道が整備されている。



①よこごし公園



②五十公野公園



⑨みどりと森の運動公園



活用イメージ

(出典：現地撮影・ホームページより)

○人気・好評な遊具

子ども達に人気の遊具や高齢者でも利用できる健康遊具などの楽しく活用できる遊具が設置されている。



⑩きらら西公園



⑨みどりと森の運動公園

(出典：現地撮影・ホームページより)

○雨天や真夏でも活動できる施設・様々な体験ができる空間とメニュー

雨天や真夏でも活動でき、子育てファミリーの休憩や体験教室、イベントなどで活用できる施設が整備されている。

【プレイルーム】



③新潟ふるさと村



④いくとぴあ

【休憩の場】



浜名湖ガーデンパーク(静岡県浜松市)

【そば打ち体験】



まちなか交流広場「ステージえんがわ」(三条市)

【イベント】ベーゴマ大会



まちなか交流広場「ステージえんがわ」(三条市)

【イベント】出店販売



「道の駅」豊前おこしかけ(福岡県豊前市)

(出典：ホームページより)

○参考となる好事例や利用者に人気があるものや好評なものについては、導入の可能性などを検討する。ただし、隣接している「よこごし公園」は、特徴を整理して機能の重複や類似をできるだけ避ける。

④公園整備の方向性

- ・阿賀野市「道の駅」に整備する公園（多目的広場）の整備に際しては、市内の公園の実態や参考となる市外の公園の事例等を踏まえ、以下の方向性で検討する。

[公園整備の方向性]

- 軽スポーツやピクニック、幼児が遊べる大きな広場の検討。
- 散歩やジョギングができるような遊歩道の検討。
- 子ども達に喜んでもらえる遊具などの検討。
- 雨天や真夏でも遊べる施設の検討。

3) 「子育て支援」に関するその他機能

「子育て支援」現時点での方向性 (P4)

<p>[方向性]</p> <p>○幅広い子どもの年齢層に対応するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に幼児や小学生を対象とする「1. 広場・遊び場機能提供タイプ」 ・主に乳幼児を対象とする「2. 子育て支援機能提供タイプ」 ・「道の駅」や公園など人が集まる場所で設ける「子育て世代のための休憩施設等」 <p>その全てを併せたもので検討する。</p>

①子育て支援機能とは

No.	子育て支援機能 (子育て支援センター機能)	「道の駅」において 導入を検討しているもの
1	親子の交流の場の提供と交流促進	○
2	子育てに関する講習会等の実施	○
3	地域子育て関連情報の提供	○
4	乳幼児対象の遊び場	○
5	子育て等に関する相談の実施	

※今後、子育て支援センターなどとの連携調整を図る

(1) 親子の交流の場の提供と交流促進

- ・親子が利用しやすい環境をつくり、保護者同士が情報交換、親子の交流や体験できるプログラムを実施する場。

[実施例] 工作会 (親子で七夕短冊づくり、豆まきセットづくり、おひなさまづくりなど) / GO!GO!えいご (英語教室) など



(2) 子育てに関する講習会等の実施

- ・子育てに必要な知識や技術を身につけるための講習会等を実施する場。

[実施例] 子育てボランティアセミナー／ベビーマッサージ教室 など



(3) 地域子育て関連情報の提供

- ・情報コーナーを作り、子育てに関する情報を広く発信する場。
- ・パネルやポスターの掲示、チラシ類の取り置きの設置など。
- ・ホームページやSNSなどでの情報発信。



(4) 乳幼児対象の遊び場

- ・乳幼児向け室内遊具で雨や雪の日でも自由で安全に遊ぶことができる場。
- ・幼児向けの絵本を設置し、親子で自由に読書ができる場。

